



「命ドウ宝」わたしたちは沖縄戦を忘れない

沖縄本土復帰50年の節目の年に、平和への願いを込めて心新たに再演

■写真・資料のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 演劇研修所 演劇研修係 高瀬・大島・柴田

Tel: 03-5352-5770 / Fax: 03-5352-5776 / Email: dramastudio@nntt.jac.go.jp

■新国立劇場 演劇研修所ウェブサイト

<https://www.nntt.jac.go.jp/dramastudio/>



@nnt.dramastudio.tokyo



@nnt_dramastudio

NNY
ドラマ・スタジオ

新国立劇場
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

【作品概要】 朗読劇『ひめゆり』 ～語り継がれるべきあの時代の記憶～

新国立劇場演劇研修所では、研修生が過去の歴史に向き合う機会として、毎年夏に広島あるいは沖縄をテーマにした朗読劇を上演しております。

今夏は、2020年に入所し2年間の研修を経た第16期生の初舞台として、太平洋戦争末期の沖縄戦における「ひめゆり学徒隊」を題材とした朗読劇『ひめゆり』をお贈りいたします。



2019年公演（第13期生ほか出演）
写真：小林由恵

実際にひめゆり学徒隊に従軍した方々の手記を、道場禎一氏と演劇研修所副所長を務める西川信廣氏が構成し、瀬戸口郁氏の手により朗読劇の形に脚本化された本作は、2016年に当研修所が初演して以来、再演を重ねる度に好評を博しています。

「ひめゆり学園」という呼称で親しまれた第一高等女学校と沖縄県女子師範学校は、沖縄本島ほか宮古諸島や八重島諸島など、周辺地域一帯の女学生にとって憧れの学校でした。教職を志し、厳しい入学試験を突破した十代の女子生徒たちが、のどかで平和な学園生活から一変、戦争の悲劇に巻き込まれていきます。戦況が深まるにつれて女学生たちは、学業に勤しむことができず、排水溝整備といった勤労働員、戦傷者の看護のため陸軍病院へと動員されました。砲弾が飛び交う中での水くみや食料調達、重病患者の運搬の描写は実に生々しく、いかに戦争が恐ろしく不幸をもたらすものかと追体験させられます。

作品中で繰り返される「命（ヌチ）ドゥ宝（タカラ）」とは、沖縄の言葉で「命こそもっとも大切だ」という意味です。多くの犠牲者を出した沖縄戦の悲劇を決して忘れてはならない、二度とこの惨禍を繰り返してはならない、平和の尊さを叫ばなければという力強いメッセージを込めた朗読劇です。世界の平和が脅かされているまさに今こそご覧いただきたい作品です。



また、今年には沖縄本土復帰50年の節目の年にあたります。全日本空輸株式会社による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」にて、6月下旬には物語の舞台となった沖縄の地を訪問いたします。作品中に登場する戦跡や現地の資料館を見学したり、沖縄独自の琉球文化や歴史にワークショップへの参加を通して直接触れたり、沖縄戦や沖縄の歴史、文化、風習に加えて現代まで抱える問題への理解を深めて参ります。

なお、新国立劇場公演の後、この度リニューアルオープンするパルテノン多摩での公演（9月3日（土））、さらに、沖縄戦が公式に終結した日にあたる9月7日（水）には国立劇場おきなわでの公演も予定しております。

第16期生一同心を込めて上演いたします。

【ものがたり】

南国の太陽が輝く相思樹（ソウシジュ）並木の道。
那覇と首里の間、安里駅近くに

沖縄師範学校女子部
沖縄県立第一高等女学校

一通称「ひめゆり学園」と呼ばれる女学校があった。
女生徒たちは誇り高く、勉学に運動に活気に満ちた学園生活を送っていた。

しかし一昭和 20 年 3 月。太平洋戦争の大波は沖縄に押し寄せ、女生徒たちに従軍命令が下される。
「ひめゆり学徒隊」として戦場に送り出された彼女たちは日本の勝利を信じ、野戦病院で献身的な看護活動に励むが、やがて沖縄は「鉄の暴風」吹き荒れる苛烈な戦場と化していき……

【スタッフ】



構成・演出：西川信廣（にしかわ・のぶひろ）

1949 年東京都生まれ。文学座附属演劇研究所 16 期、81 年座員となる。86 年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてイギリスに滞在。ブリストル・オールドビックやナショナル・シアターでロジャー・リース、ピーター・ホールなどの演出助手を務める。84 年文学座アトリエの会『クリスタル・クリアー』で文学座初演出。以来、文学座を中心に商業演劇から小劇場までストレートプレイを中心に幅広く活動中。新国立劇場での演出に『野望と夏草』（読売演劇大賞優秀演出家賞受賞）『母たちの国へ』。92 年文学座アトリエの会『マイ チルドレン！ マイ アフリカ！』にて紀伊國屋演劇賞個人賞、芸術選奨・文部大臣新人賞。94 年文学座公演『背信の日々』で読売演劇大賞優秀演出家賞ほか、受賞多数。日本劇団協議会会長。日本演出者協会理事。新国立劇場演劇研修所では設立時より現在まで副所長を務める。演出家。



脚本：瀬戸口 郁（せとぐち・かおる）

慶應義塾大学文学部卒業。文学座所属。俳優として、『寒花』『女の一生』『再びこの地を踏まず』など文学座の舞台を中心に活躍。『夜の来訪者』（俳優座劇場プロデュース）など外部出演も多数。脚本に『ザ・クライシス』（文学座アトリエ）、『食いしん坊万歳！』（文学座）、『真砂女』（劇団朋友）、ミュージカル『君といた夏』（可児市文化創造センター）、『南の島に雪が降る』（劇団前進座）など。脚本作品『てくれつつのぼ』(劇団文化座)が平成 20 年度文化庁芸術祭大賞を受賞。同作品は韓国、トルコ共和国でも上演される。また新作日本舞踊の脚本『白蓮耨多羅』（徳彌の会・国立劇場）を手掛けるなど、ジャンルを問わず旺盛な執筆活動を展開している。俳優・劇作家。



構成：道場禎一（どうじょう・ていいち）

フリーの演出家・演出助手として活動。その活動は小劇場から商業演劇まで多岐にわたる。主な演出作品に『赤ずきんちゃんの森の狼たちのクリスマス』『歌うシンデレラ』『東おとこに京おんな』などがある。1992 年より西川演出作品に参加。『野望と夏草』『母たちの国へ』『音楽劇 人形の家』『音楽劇 ハンナのかばん』『仮縫い』ほか多数の作品に参加。2009 年より金沢市民芸術劇場(K-CAT)に参加、地域劇場での演劇活動にも積極的に参加している。演出家・演出助手・舞台監督。

【キャスト】

新国立劇場演劇研修所 第16期生

			
伊海 実紗 いかい みさ	越後 静月 えちご しづき	岸 朱紗 きし あかしゃ	笹原 翔太 ささはら しょうた
			
都築 亮介 つづき りょうすけ	藤原 弥生 ふじわら やよい	松尾 諒 まつお りょう	宮津 侑生 みやづ ゆうき
			
安森 尚 やすもり なお	米山 千陽 よねやま ちひろ		

新国立劇場演劇研修所 修了生

		
五十嵐遥佳 いがらし はるか 第14期(2021年修了)	安藤百合 あんどう ゆり 第15期(2022年修了)	福士永大 ふくし えいだい 第15期(2022年修了)

【公演概要】

令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト 新国立劇場演劇研修所 朗読劇『ひめゆり』

脚本：瀬戸口 郁

「私のひめゆり戦記」(宮良ルリ著) 「ひめゆりの塔 学徒隊長の手記」(西平英夫著) 「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」(仲宗根政善著)より

構成：道場禎一

構成・演出：西川信廣(新国立劇場 演劇研修所副所長)

美術：小池れい

ヘアメイク：前田節子

照明：塚本 悟

歌唱指導：伊藤和美

音楽：上田 亨

方言指導：南里双六(第3期修了)、下庫理ゆき

音響：黒野 尚

演出助手：椎名一浩(第11期修了)

衣裳：中村洋一

舞台監督：米倉幸雄

出演：新国立劇場演劇研修所 第16期生

伊海 実紗 越後 静月 岸 朱紗 笹原 翔太 都築 亮介
藤原 弥生 松尾 諒 宮津 侑生 安森 尚 米山 千陽
五十嵐遥佳(第14期修了) 安藤百合(第15期修了) 福士永大(第15期修了)

演劇研修所長：宮田慶子

制作：新国立劇場

主催：公益財団法人新国立劇場運営財団、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

東京公演

会場：新国立劇場 小劇場

日程：2022年8月 11日(木・祝) 14:00 / 12日(金) 18:30
13日(土) 14:00 / 14日(日) 14:00

料金(税込)：A席 2,200円 / B席 1,650円 / ジュニア席(小学生～中学生)・学生券 1,000円
Z席 1,650円

チケット：新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999
Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>
チケットぴあ【Pコード：512-551】 <https://pia.jp/t>

前売：一般発売日 2022年7月3日(日) 10:00～

公演Webサイト：https://www.nntt.jac.go.jp/play/himeyuri_2022/

※チケット販売等、最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

沖縄公演

会場：国立劇場おきなわ 小劇場

日程：2022年9月7日(木・祝) 14:00

料金(税込)：大人 2,000円 / ジュニア席(小学生～中学生)・学生券 1,000円

チケット：新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999
Webボックスオフィス <https://pia.jp/nntt/>
チケットぴあ【Pコード：513-073】 <https://pia.jp/t>

前売：一般発売日 2022年7月3日(日) 10:00～

公演Webサイト：https://www.nntt.jac.go.jp/play/himeyuri_2022-okinawa/

※チケット販売等、最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

外部公演(多摩公演)

会 場： パルテノン多摩 小ホール

日 程： 2022年9月3日(土) 15:00

公演 Web サイト：<https://www.parthenon.or.jp/event/20220903theater>

お問い合わせ： パルテノン多摩 042-376-8181

主 催： パルテノン多摩共同事業体

【沖縄国内研修】

全日本空輸株式会社による新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援

2022年6月21日～25日、全日本空輸株式会社による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」を受けて、第16期生が舞台となった地・沖縄にて事前国内研修を実施いたします。ひめゆり学徒隊に関する資料を保管・展示するひめゆり平和祈念資料館の他、作中に登場する第32軍司令部壕やアブチラガマ(糸数分室)などの戦跡を訪れる予定です。

また、琉球の文化や言葉にも見識を深めるため、琉球舞踊のワークショップへの参加や、国立劇場おきなわでの組踊の舞台鑑賞も予定しております。



2019年沖縄研修の様子

【新国立劇場 演劇研修所について】

新国立劇場演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強い身体を備えた次世代の演劇を担う舞台俳優の育成を目指して、2005年に設立されました。研修期間は3年間で、原則として週5日間、午前10時～午後6時のレッスンを、年間を通して行っています。

1・2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣による基礎的な訓練およびシーンスタディを行い、3年次には修了に向けて数本の舞台実習公演を行います。

修了生は、新国立劇場公演のみならず、さまざまなプロデュース公演に出演、映像作品への出演、声の仕事など、活躍の場を広げています。

本公演に出演する第16期生は、2020年4月に入所。コロナ禍により活動が制限された中でも、2年間の厳しい研鑽を積んでまいりました。3年次である今年度、朗読劇『ひめゆり』公演を経て、10月には試演会、2月には修了公演と舞台での実践的な経験を積み、国内外で活躍する俳優への道の一步を踏み出します。今後の公演、そして活躍にもどうぞご期待ください。

新国立劇場演劇研修所ウェブサイト：<https://www.nntt.jac.go.jp/dramastudio/>

<授業風景>



アクション



特別授業
ノルウェー作家について



日本舞踊

演劇研修所修了生の出演情報：<https://www.nntt.jac.go.jp/play/training/graduate/info/>